を 向え会

っくき○億

考え方

なめめ件。の業企い経復

さわやか新聞

向 十 上 発 四 其月 基展 礎の 営 を 固 画 め

経 我社の目指す方向

1 0 月

000 四四た 八八ま 八八南 七七白 七七3 四四1 九三3

第18号

行 玉玉式 X話県支会

ビ

メ

ナ

ゎ

な

か

優

秀

賞

の

皆

さ

11月は横浜で実施しまーす!

でを協る貢け

まに全こ成域喜

す取身と長社ん

。組全にさ会で

ん霊妥せに頂

長

行

専

務

取

経

営計

画

書

ょ

粋

〜修

り鳴締

抜重役



を私疲参イ 頂達れ加べさ く社を者ンわ 事員大のトや が一い皆がか 出同に様目社 来も癒に白員 ま楽しは押の しして、し表 たい頂目に彰 。思き頃あ、 出、のり他

な邁社かべとる活題務りけ社

い持すべ献る今っ進のり│考会力解にがる員第兼一のま社

くっるくで会期て出目身スえ社の決向、こが一ね**考**根す経

こてこ、き社もい来指にとまであにかやと誇ビ備**え**底。営

を業なら企り客ま組方ける。り組む、が社るメた×あ我必

誓経くゆ業、様す織向、考今続織こ組い員会ン皆**熱**る社要

、るに地に。作に各え期け風と織をひ社テ様**意**のので

り向部方はる土にと持とでナで×は目あ

をか門を我こをよしつりあンす能

行っがし社と誇りててひりス。力

て我っのだれ、問業と続は

と事とある作おきるすつなすある臨いり。れルえ方に

さわ

永や

年か

勤社

続員

功

労

賞

の

皆

方考

名社ま日 で員しへ去 開慰て日る い会第大成 たを十江 し参八戸十 ま加回温年 し者さ泉九 た一わに月 。九やお三

能力

(お客様の喜び) (スキルと資格) (安らぎと活力)

伝説の領域への達成

安らぎと活力のある場

土員の喜びと誇り

お客様の喜び

お客様第一主義

×

熱意

○かき十

結果

埼最記今 日ど去 、最4 外歷高年 で史のの 働的温夏 くな度は 皆暑を 様さ記境 、で録団 本しす県 当たるて

に。な過

玉高録年 か

兼兼千千千千千千中中第第第第第第 務務葉葉葉葉葉葉葉央央四三三三二-支支支支支支支支支支支支支支支

石伊石市今関鈴高高井大尾三高小万入 川藤田川村 木橋橋上谷崎上橋林代谷 不

二幸靖俊幸真英栄禮英ハ昭榮富英み正 男男子子治澄良さ子一ル子太美子ち紀 さささささささんささささ郎子さ子さ んんんんんんん んんんんささんさん

い忘員

交のて後リ

。心もでな、か支よ、。含

に時はり意社店るテ

お間、ま見員ごビキ

話をさしをのとデス

し経わた出皆にオト

さつや。し様分解と

合かか説ス

まれの交流、さ半」前まび人会に六 、皆流会質わはン半し社数がて月 た熱様会と問や各にはた員は実さ二

埼埼千千第第第第 玉玉葉葉四四二 支支支支支支支支 店店店店店店店店店

原佐石高増大浅森 ています。田々田橋田谷川 木

安國靖禮廣加ん清 雄男子子子納子成 ささささささささ んんんんんんんんん

、施わ十

めささやー

百われか日

十かし員B

人社た合 I

と員。同Z

りよ加流宿

Danchi

今回、さわやかさんに好評だった清掃テキストです。 御希望の方は各担当者へ。



感心●くわか解●用り来●めかま● 謝に社分かつ説スさまて今てつすい で御員かりたがクせしい回知たのつ す指のりにでとりてたてのる清でも ∘導みまくすて「も 。、テ事掃 、一 しなしい。もンら今とキがの今人

だが さ大 つ変 がだすデ よとオ 活な出。たい て熱

皆さ交 様わ流 かや会 らかに の社参 感員加 想のさ で れ す た

れのか

てを社



戻一さ たを百 千を援震発 れ日れ現。通万こ五募すー生平義新 じ円れ百つるでし成援湯 るもて在 よ早いも てとに円た為被た+ 寄い会集とに災っ九金県 うくる不 付っ社りこ社さ新年 医中 願も被自 っと災由 いしかまろ員れ潟七金越 たよらし、かた県月の沖 ての者な しにのた十ら方中十 い暮の暮 ま赤義。七義々越六 まら皆ら 万援を沖日告震 すし様し し十援 字金 九金支地に 。にがを

てさた体写分にい後てスで基まで くま。の真かよまのもトき本で作 動だりるす清参はまを知業 きけやビ。掃考良しあらし でにくたらなて



管理人室・・・というより ホテルのフロントです。

ド人でな思に理ラか飾様やてN_へ川 ち二田に ンと働っわ南フンくっ々しおDハにこ上百へて七 □清くてせ国ロスあてなのり E 「囲のが四地、月 を掃さいるのンとるあ置木、Nトま建り十上ロー 紹口わまよリトホ吹り物 *、エ*ンアれ物ま七十イ日 介ボやすうゾでテき ^や建ンの**イ**たはし戸四**ヤ**よ しッか。な「、ル抜圧壁物ト中ラ都、た一階ルり まト社今つト内のけ巻掛内ラにン市荒。が建パ、 すの員回くホ外よのはけにン建ド計川 ○□のはりテ観うエ十のはス設S画と し総ク玉 トおそにルとなンm絵大にさH区隅 く戸ス支 をも管トちが小はれ I 域田 立数新店

さわやか新聞





-人でEVに乗降りします。

い発きシで体た場し掃 で見まョヽを。のた業わ すがわンこ動家清 °務た**茂** °あるのうかに掃最にし出 りの中いすこを近従は木 `はをうのもしま事二**千** と毎清特がるてでし十代 て日掃殊好よおはて二 も新しなきりり、ま年されてマな、まゴい間に しい動ンの外しルり、ん

フま清 廊下清掃中です。「ボクノナマエハ、トンドン」



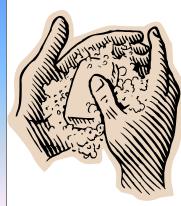
かのいンす事住が初う験 っおまを。をみ、はな者わ てかし二こ考よ住戸立でた**深** いげた人んえいん惑派すし町 までがでないマでいな。は春 す今、は大清ンいがマい、夫 。は清大き掃シるあンき日さ と掃変なしョ方りシな常ん てロだマてンがまョり清 もボなンいに清しンこ掃 助ッとシまな潔たでの未 ト思ョ るで 最よ経



てもしへが いま料の入うや濯時よ年ち ま程時 ん混含ら中知ら一イ すてカのが いにた明出日まやをが浴で胃物のる、込日し前代石でぜま出にら洗晩のそかいマ残、皆 き石。治来本し、入い用す病に日とキま本たにのけすてれた溶ずう漬中れ?たドり洗さ まけそ六たにた軽れ大具。のは本言リれに。す初んね石て脂けか。けにも しんの年の初。石た豆と石薬用人わスた初 で洗ンしけ用いはれトのめ たが後~はめ 体い小でんとら、て教はて 。急文横いて を粉豆使のしず石いの、石 速明浜一石 あでのっ代て、けま宣一け に開に八け ら一粉でわい便んす教五ん 普化出七ん 及と来三工 っくにいりた秘を。師四が てち香たにそ薬洗当に三持 しとま年場

のの湯濯ん で期の。けい肪て、母置洗前 を灰をタが に、誕 んる分い風親き濯夜 見を入ラ子 使今生 をアとる呂達し物の た混れイ供 作ル、人のはてをう 用かは 事ぜ、のの はてそ中頃 つカ灰間残知朝入ち さら、 れ三口 てリののりっ早れに あ洗のに、 て手し い分中体湯てくてタ り濯中風母 い年マ たをにかのかか、ラ ましに呂親

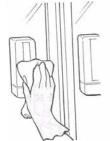
す石へ かけち ?んよ のつ 史ま 知め つ知



《ドア枠やドア溝の清掃.》

〇ドア枠のステンレス(鏡面 仕上げ)は、専用のクリー ナーを用い、タオルなどで拭 きます。

〇ドア溝や自動ドアのレー ルは土砂が溜まりやすい部 分です。真空掃除機や溝ス キなどを用いて除去します。



《ドアハンドルの清掃》

〇ドアハンドルの手あか汚れ は、汎用クリーナーをスプレー し乾いたタオルで乾拭きしま

○回転扉の握手部分もタッチ 式スイッチの手触れる部分の 汚れも上記と同様清掃します。

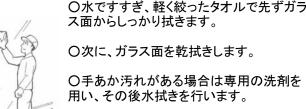
《ガラス面の清掃.》

タオルの代わりにワ イピングクロスを使う

> ス面からしっかり拭きます。 ○次に、ガラス面を乾拭きします。

> > ○手あか汚れがある場合は専用の洗剤を 用い、その後水拭きを行います。

※注意 ガラス面やドア部分の作業時に は、必ず自動ドアを止めておきます。



L)

うグ

0

基

〇風除室にある傘たても汚れやホコ リをタオルで拭き取ります。





〇床面は乾式モップや自在ぼうきな どで除塵します。床面の汚れに応じ てモップによる水拭きや洗剤拭きを 行うこともあります。洗剤拭きの後に は必ず水拭きを行いましょう。



す族んて

○フロアマットは、真空掃除機などで マット上の土砂やホコリを除去しま す。固着物が付着している場合は、 パテナイフで取り除きます。



第一 一連 ビ絡 三総ル先 ニ務メ느 九部ン テ 九 |根ナ 〇津ン 一宛ス 四

ぜと管おし員皆 ひい理知まの様 とう人りし人の も方業合た数お ごが務い。もか ーげ 紹おをで 介らや、 七で くれ つ清 Оさ だまて掃 Oわ さしみ業 名や いたた務 にか ・らい、 達社

お ご友 紹達 介を < だ さ

動か しら 玉 進も 支 化常 阿店 しに て前 部 いれのて 行向 きき また皆く 敏

まに

。に、い毎たらしすれ人、し山ご、に最 本自る日。れた。て達た一形ざあ選優 乗が時、にく年かいりん秀 当分さ頑 にをわ張 り、に頂支さがらまがで社 感育やっ 謝てかて して社働 てく員い

家され

切周はいえん経上すと頂員 るり辛た 事のい賞 が皆事だ 出様もと 来にあ思 ま支りい

しえままらのち京



うき賞

阿最平 部優成 君秀十 お社九 め員年 で賞度 と受う賞